

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

## 主 論 文 の 要 旨

論文題目

ディアスポラ方言としての在日コリアンの朝鮮語  
に関する社会言語学的研究—朝鮮学校コミュニテ  
ィを中心に—

氏 名

権 恩 熙

## 論 文 内 容 の 要 旨

多くの移民コミュニティにおいて民族語の使用は2世で継承が途切れ、3世以降の世代からはホスト国の言語へとシフトされることがほとんどである。しかし、朝鮮学校を中心とした在日コリアン・オールドカマーのコミュニティでは日常生活の諸場面においていまだに朝鮮語が使用されており、彼らの朝鮮語は「方言使用如何を含む世代差や本国の親戚の共和国の規範語・韓国の規範語、あるいは社会の日本語の間で、多方面からの影響」(植田 2009:139)を受けながら、独自に発展し、共和国や韓国のそれとは異なる特徴を多く持つようになった。その特徴のある朝鮮語は社会言語学的に注目度が高いが、外部に閉鎖的なコミュニティであるとの認識とアクセスの難しさのせいで、言語使用の具体的な実態についてはあまり明らかになっていない。

このような背景のもと、本論文では朝鮮学校を扱っているドキュメンタリー7点における在日コリアン3世以降の自然発話と、朝鮮学校の中級部と高級部授業7回分の録音資料をもとに、「在日朝鮮語」と呼ばれている言語変異の実態について実証的かつ定量的な分析を通して究明することを試みた。

その結果、朝鮮学校コミュニティの朝鮮語は、一般に言われていることとは異なり、単なる「日本式朝鮮語」などの言葉だけでは説明できない複雑多岐な重層性を持っていることがわかった。たとえば、聞き手敬語の運用においては、基本的に韓国と共和国と同じ6等級の体系を持っていながらも、使用する語尾の面では共和国の影響が著しかった。共和国の言葉にもとづいた教科書と教育の影響と考えられ、共和国でよく使われる語尾である「-자요 cayo」と「-으라 ula」、よく使用されるスピーチレベルである「하오 hao 体」の使用が目立つ。一方、1世の渡日当時に一般に使用されていたスピーチレベルが今になっても使用されていたり、メディアなどの影響で現代韓国でポピュラーなスピーチレベルが使用されることも少なくないことが分かった。このように形式的な面では韓国と共和国の影響を強く受けつつも、具体的な敬語運用ルールに関しては日本語の影響を受けた側面も見られ、目上の人に対して非尊待待遇等分を

用いるケースが確認された。さらに、聞き手敬語の運用と直接的な関係はないが、朝鮮学校内で長年続けられてきた書き言葉中心の教育により、書き言葉的な語尾の使用が多く見られるのも特徴的であった。

次に呼称使用に関しては、親族名呼称の場合は韓国の朝鮮語から影響を受け、通称的呼称の場合は共和国の朝鮮語から影響を顕著に受けており、日本語の影響は比較的になかった。朝鮮語呼称の使用において日本語の影響と見られるのは「名前単独呼称」と「韓国の親族名呼称の音声的変異形」の使用のみであり、その他に「変形テクノミーの使用」などのように日本語が影響していることで起こっている現象については事例が少ないため、今後の追加調査が必要と考えられる。

そして日本語のみの影響を受けている現象も存在した。言葉の表面に現れる表現の構造がそれに該当し、共和国と韓国ではあまり使われない名詞的表現が朝鮮学校コミュニティでは比較的多く観察されていた。このことは、朝鮮語を使用する際の言語的思考のベースが日本語であることが影響している可能性が高いことを示している。前述した聞き手敬語の使用ルールの中に、目上の人に対して尊待待遇等分のスピーチレベルを使用できることも繋がる内容である。ただ、具体的に見ていくと、朝鮮学校コミュニティの名詞的表現の中には日本人朝鮮語学習者(中・上級レベル以上)からは確認されない名詞的表現が観察される。そのため、朝鮮学校コミュニティの朝鮮語が日本人朝鮮語学習者の朝鮮語と何ら変わりがないと言うには語弊があるであろう。

一方、日本語の影響をまったく受けていない、朝鮮学校独自の発展の結果と見られる現象も改めて確認できた。「書き言葉語的な語」と「非縮約形」を話し言葉においても多用している点がこれに該当する。この現象は、朝鮮学校コミュニティの朝鮮語が日本人朝鮮語学習者とは異なる様相を帯びる最も重要な要因のひとつである。ほかには、1世の最大出身地である韓国の慶尚道地域方言の影響を受けている点と、共和国の規範語の影響を受けている点も朝鮮学校コミュニティ独自の特徴といえよう。

ただ、多方面から影響を受けたとしてもそれらすべてが同時期に影響を及ぼしたわけではない。第2章で見たとおり、時代ごとに彼らの言語に影響を及ぼすいろいろな出来事が存在し、その影響を受けて朝鮮学校の朝鮮語も多様な姿に変容してきた。1世と2世は日本語と渡日当時の韓国の地域方言の影響を強く受けていたが、家庭内での朝鮮語習得が難しくなった3世以降は「朝鮮学校」教育の影響をもっとも強く受け、共和国の朝鮮語が軸となっている中で日本語の影響も窺えるような朝鮮語を使用するようになっている。さらに1世のほとんどが亡くなった今となっては渡日当時の慶尚道と済州道方言の影響は語彙程度にとどまっていると見られる。

朝鮮学校コミュニティの朝鮮語は、大きく3つの側面を持っている。まずは「継承言語」としての性格を、学習者の「中間言語」としての性格、そして「学校型バイリンガリズム(金徳龍 1991)」としての性格も持っている。ここで「継承言語」としての

側面を持っているというのは、在日コリアン 1 世の朝鮮語が次の世代へ受け継がれることにより現れる特徴があることを言う。本論文の場合、在日コリアン 1 世が渡日する当時(現代国語第 2 期)の朝鮮語と 1 世の出身地(主に慶尚道と済州道)の方言が影響を及ぼしていることを意味する。次に「中間言語」としての側面を持っているというのは、日本語を第一言語とする 2 世以降が、朝鮮学校において朝鮮語を第二言語として習得していく過程であらゆる特徴が現れることを意味する。最後に「学校型バイリンガリズム」としての特性というのは、学校、特に朝鮮学校という特殊な空間を介して朝鮮語を学ぶことによって現れる特徴があることを意味する。朝鮮学校ではイマージョン方式で朝鮮語教育が行われるため、生徒たちは一般科目の授業を朝鮮語で受けることで「習得」に近い形で朝鮮語を学習する。ところが、生徒たちにインプットされる教科書と教員の言葉は書き言葉としての性格が強く、その影響が話し言葉にも出ているのである。

さらにここで重要なのは、多くの移民コミュニティの言語とは異なり、こういった重層性のある朝鮮語が 1 世代や 2 世代で断絶されてしまうのではなく、「朝鮮学校コミュニティ」を通して共有され、継承されていくという点である。祖国の植民地化に対する反作用とホスト社会の根強い差別により、完全に日本社会へ同化するか、民族教育を中心とした別途の独自のコミュニティに属する傾向を強め、在日コリアン・オールドカマーのコミュニティの中で最大の規模のコミュニティが「朝鮮学校」という民族教育の場を中心に形成されていった。今の朝鮮学校では、日本語が母語である 2 世から朝鮮語を習った朝鮮大学校出身の 3 世の教員が 4 世、5 世の子供たちを教えているが、共和国や韓国から朝鮮学校に教員が派遣されることもまったくない。また、日本学校を卒業した者や日本人が朝鮮学校の教員になることもほとんどない。そのため、彼らのみの独特な特徴を持つ朝鮮語が、朝鮮学校を通して独自の継承・再生産されることが可能になったのである。

では朝鮮学校コミュニティの朝鮮語は、地域方言や社会方言、ピジン/クレオール、接触言語、コイネといった言語変種に関する既存の諸社会言語学の概念の中でどれに該当するのだろうか。本論文では「ディアスポラ」に該当する移民集団の言語変種の新たなカテゴリーとして「ディアスポラ方言」を提案したい。김하수(2017)の言う「디아스포라와 연계된 한국어의 변종(ディアスポラと関係された朝鮮語変種)」がこの概念に近いと考えられる。こういった移民言語変種の新しい下位カテゴリーを設定することにより、今まで「ピジンのな」「ピジンに近い」「日本地域方言」などのように曖昧な表現で説明され、不適切にカテゴライズされてきた朝鮮学校コミュニティ(3 世以降)の朝鮮語について、より明確な概念を用いて説明ができるようになることを期待する。